地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭や地域の人々、地域関連機関と協力し、利用者が安心して自立生活が続けられるよう、柔軟な支援を事業所の理念の柱に置いている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下や事務所内に運営理念を掲示し、スタッフ全員が常に目にし、確認できるようにしている。また申し送りやミーティングの際に、具体的なケアに合わせながら話し合うようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用契約書に明記してあり、入所時に説明を行い、署名・捺印により同意を得ている。来所者の目につきやすい正面玄関に理念の掲示をしている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩コースが幾通りかあり、その途中で田畑で働いている方、ご近所の方との挨拶や会話をする機会は多い。時に収穫した野菜や花などをお土産にいただくこともある。理事長宅は近所にあり、自治会その他へ積極的に貢献している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭へは、地域への声かけ、チラシの配布などをし、大勢の参加をいただいている。獅子舞、節分、敬老会などの季節ごとの行事に地域のボランティアを通じ交流の輪を広げている。		

事業所名: グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの見学相談などの場合は、認知症についての理解を促す取り組みをしている。認知症についての学習会等の依頼があれば、講師として参加などもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組むことにより、サービスの質の向上・確保を図るための指針を再確認する機会となっている。外部評価の結果を受け、職員で検討し、改善に努めている。		
8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進委員会を開催し、利用者の様子やサービスの実際を報告している。外部評価については、全文を公開し、特に改善すべき点などについては、逐条的に報告し、意見を求め、より良いサービスの提供になるよう努めている。		
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催または市内の施設部会等を通じてコミュニケーションを定期的に取るとともに、定期的な学習会なども行っている。また施設運営についても相談に乗っていただいている。		
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度について」のパンフレット等を常備活用し、相談・支援に努めている。2名の成年後見制度の利用をし、うち1名は老健の施設入所へ紹介した。		
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の外部研修会へ職員を参加させ、その内容の職員間の伝達等により、高齢者虐待法に関する理解や、利用者の尊厳の保持について取り組んでいる。		

事業所名: グループホーム甲西

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や契約解除に際しては、充分な話し合いが段階や期間を経て行われ、不安や疑問に対しての説明が行えるようにしている。また、重度化等についても説明し、同意を得ている。		
13	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察することができるよう努力するとともに、併設施設の他職種職員と利用者との交流の機会を作り、意見を求め日々のケアに生かしている。		
14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員から家族宛てに現状を報告し、必要がある時は更に電話などにて様子を知らせている。金銭については、毎月金銭出納帳の写しと領収書などを送付している。		
15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、手紙や面会時、介護計画書の見直し時等に、何でも言っていただけるような雰囲気作りに留意している。また、苦情・相談等についても、併設施設の相談室へ窓口を設け、直接ケアしているスタッフには言いにくいことも言ってもらえるよう配慮している。		
16	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月一回定期的に行い、それぞれの意見を聞くとともに、全員に係や担当を決め、その時の意見のやり取りに早めの対応を取れるよう配慮している。なお、理事・事務長などは、毎日何回か巡回をし、意見を聞きやすい雰囲気を作っている。		
17	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、利用者への特別対応の必要時など、それに応じた勤務調整をしている。		
18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族と職員との馴染みの関係を重視し、やむを得ない場合以外の交代はできるだけスムースに行えるように心がけている。		

事業所名：グループホーム甲西

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修や学習会への参加の促しと共に、併設施設からの意見やアドバイス等を通じ育成に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会合・部会・研修には必ず出席している。また、市内の施設部会を通じ、共に研修したり、交流を持つなどし、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常、職員よりの相談事は気安く受けるように心がけている。また、職員の疲労やストレスに気を配り、気分転換できるよう、休憩室を確保している。併設施設の職員との親睦もストレス解消に役立っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場の状況の把握に努めている。資格取得に向けた支援を行っている。本人の意向を重視し、職場内で活かせる行動環境づくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談時には、本人にホームを見学していただく。本人より、置かれている状況や苦しんでいること、困っていることなどを聞き、職員全員でその人を受けとめようと努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度か家庭との話し合いの中で、家族が困っていることはないか、不安なことは何か確認し、それを受けとめ対処するようにしている。		

事業所名: グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急的に対応が必要な方には、できるだけ早めの対応をしている。その上で本人や家族の意向、居間の状況等を確認した上で、併設施設と連絡を取りながら、改善に向けた支援の提供をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず本人と家族とでホーム内を見学してもらい、可能であれば遊びに来てもらったりを繰り返し、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から趣味や特技を指導してもらったり、生活の場面では、身の回りの家事や昔のならわしなどを聴くなどの場面を作るようにしている。支援する側・される側という意識を持たず、互いに協同しながら生活する、という考えで過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と定期的に連絡を取り、家族と情報交換し、ともに入居者本人の生活を支えることができるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日ごろの状態を報告・相談したり、本人と家族の絆を大切にしている。行事のお誘いや家族と過ごす時間が持てるよう声かけをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす知人や友人の面会や、手紙などのやり取りを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係について職員が把握し、心身の状態や感情の起伏に注意しながら、職員が調整役となって支援している。		

事業所名：グループホーム甲西

項目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方に会いに、入居者と職員で面会に行ったり、退所された方の家族が顔を見せてくれたり、相談に来たりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけや表情などから、本人の思いをくみ取るよう努めるとともに、家族からも情報を得るようにしている。また、得られた情報から本人にとってどのような暮らしが良いのか、の検討をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前およびその後も、プライバシーへの配慮をしつつ、本人、家族・親せきなどの面会時に、情報が得られるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の心身の状態も含めて、生活のペースや本人のできる力の把握・発見に努めている。センター方式を用いて総合的に把握するよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、職員の意見交換やモニタリング・カンファレンスなどにより、意見やアイデアが介護計画に反映できるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状態と実際の利用者の状況を照らし合わせて、定期的に見直しをすると共に、状態が変化した際には、期間前であっても検討見直しをするようにしている。		

事業所名：グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居前のケアの個別状況やケアを行った時の気づきや工夫・本人の表情・言動などをできるだけ記入するようにしている。また、その記録を職員全員で共有し、ケアのさらなる実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状態に応じて、通院の随行や送迎の支援など柔軟な対応をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域での安心した生活が維持できるよう、警察や民生委員との交流を持っている。また近隣の住民の方が、ボランティアとして行事毎に協力して下さっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、訪問マッサージや訪問理美容サービスなどの利用をしてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターからの参加もいただくことになり、相談や情報交換等の協力体制ができている。今後も利用者本位の支援につなげていけるよう努めたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医と病院の確認をし、受診するようにしている。		

事業所名: グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時に、かかりつけ医と病院の確認をし、受診するようにしている。また、併設施設の医師に相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師が常設しているので、必要時はその都度相談し、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した利用者へは、随時入院先を訪問したり、家族と連絡を取ったりしている。入院中の利用者や家族の精神的支援をすると共に、医療機関との話し合いを持ち、連携を取るようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の段階で急変や重度化した時の対応について、家族と話し合いをし、同意のサインをいただいている。また、その後も状態の変化に応じて繰り返し話し合い、相談をし、家族・職員・かかりつけ医とで方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今のところ該当者がいないため、具体的な対応についての取り決めができていない。今後はそうした場面に備えての話し合いや連携作りについて取り組んでいきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当グループでは、併設施設への移り住みが何件かあり、その都度アセスメントやケアプラン・実際のケアの状況などを情報交換し、手渡すとともに、なじみの職員が訪問に行くなどし、暮らしの変化によるダメージを最小限にするよう努めている。		

事業所名：グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カンファレンス等の折に、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、日々の関わりの振り返りをしている。また、入所時に個人情報保護についての説明をし、家族からの同意も得ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と生活を共にする中で、本人の希望や関心、嗜好などを見極めながら、自己決定をしやすいような提案を心掛けている。難聴の方には、筆談を用いたり、表情を読み取ったりし、自己決定の場面を作るようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、基本的には本人に合わせたペースでの支援を心掛けている。食事の時間なども、それぞれに本人の希望に沿って、支援している。日中の過ごし方なども、本人の希望に合わせて支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には、身だしなみはそれぞれ本人に任せており、必要時に手を貸すようにしている。着替えの際などには、衣類なども自分で好きなものを選んでもらうようにしている。理容・美容については、本人と家族に希望を聞き、同意を得ている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望や好みなどについては、その都度食事の際に聞いたり、残食の様子を見たりしながら、厨房へ意向を伝えるようにしている。食事の準備や片付けは、利用者と共に行っている。また、利用者と職員とが同テーブルを囲んで、穏やかに食事をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒と煙草を希望される方がいないので、もっぱら好みのおやつ等が食べられるよう、家族と連絡を取っている。お酒なども希望があれば、好みに応じて対応することになっている。		

事業所名: グループホーム甲西

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	〇気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意・便意や排せつパターンの把握に努め、トイレ誘導などに努めている。排泄の自立支援に向け、尿漏れ自体を問題視することなく、一人一人が気持ちく排泄できるよう取り組んでいる。		
57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回で、午後の時間となっている。入浴の回数などについては、希望を聞きいろいろな対応ができるように考えている。		
58	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を促し、散歩や趣味などの時間を設け、生活のリズムを整えるよう努めている。また、夜間なかなか入眠できないような方には、温かい飲み物を飲んでいただいたり、添い寝をするなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに得意なことを生かしてもらえるよう、日常生活上の役割や行事の際の役割などを決め、楽しみながら生活できるように工夫している。また、職員とか利用者とかの隔てなく、互いに感謝の言葉を伝え合うように心がけている。		
60	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の小遣い程度の金銭については、基本的に自己管理としている。本人や家族の希望で預かる場合は、その収支を小遣い帳に記載し、ご家族に承認していただいている。		
61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中に決まったお気に入りのコースの散歩を希望されている方がおり、毎日の習慣としている。その際に、車いすの方も一緒に戸外へ出るよう支援している。		
62	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に沿って外出をしている。家族の協力も得られるよう、今後も働きかけをしていきたい。最近は、市内の「名所めぐり」を計画し、実行している。		

事業所名: グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置もあり、希望によって自由にかけられるようになっている。また、手紙のやり取りも行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠慮なく本人と馴染みの人たちで、ゆっくりと過ごせるよう時間を作ったり、希望があれば泊まることもできることを伝えている。また、家族・知人がどう対応していいか分からない時は、さりげなく間を取り持つ等の配慮をしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提としている。事務室の前に拘束をしない介護について決意を掲出している。市内の施設部会研修会などへ参加し、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する知識を、職員間で共有できるよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアを開くと小鳥のさえずりのチャイムが鳴り、ドアの開閉が分かるようになっており、施錠は夜間のみとなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が、さりげなく見守りを行っている。居室で過ごされる方には、時間で訪室し声かけなどを行っている。夜間は職員が、居室を見渡せるよう、ホールで過ごし、入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、包丁などの厳重に注意すべきもの、洗剤等管理が必要なもの、使うときに注意が必要なハサミや裁縫道具など、用途に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者それぞれの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫をしている。万一事故が発生した時は、速やかに事故報告書を作成し、ヒヤリハットと合わせてその後の予防に努めるようにしている。		

事業所名: グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入職時のオリエンテーション時に、全職員に徹底している。その後日赤の研修も実施した。		
71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、年2回、併設施設と合同にて、災害時の避難訓練を行っている。その際に、消防署及び近隣の住民の参加協力が得られるよう働きかけている。		
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時及び変化があったらその都度、家族へ連絡し、起こりうるリスクについて理解をしていただき、さらに出来るだけ抑圧感の無い暮らしの支援について、納得をしていただけるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から、利用者一人一人の「普段の様子」を把握し、変化や異常の様子に気づいた時は、バイタルサインのチェックを行い、変化時の記録をし、状況により、病院への受診の対応へ結びつけている。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の服用している薬の目的・副作用についても、処方・薬用説明書により把握するよう努めている。また医師の指示に従って、内服介助をし、その後の病状に変化があれば、確認し・記録に記載するようになっている。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	むやみに薬に頼るのではなく、食事の工夫や適度の運動や水分の摂取を促し、自然排便に取り組んでいる。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、その人に応じて個別の介助をしている。また、入れ歯の洗浄・管理の支援も行っている。		

事業所名: グループホーム甲西

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が状況を共有している。一人一人のムセや飲み込み状況・好き嫌い等を見ながら、管理栄養士と共に、食事形態及び好みの食品の調整をしている。水分に関しても、水分ゼリーなどの対応もしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について細かくマニュアルを作成し、取り決めを作り、異常の早期発見・早期対応に努めている。利用者・家族の同意を得て、毎年インフルエンザの予防接種を行っている。また、普段から充分な手洗いの励行を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理と調理は、併設施設の厨房にて一括管理されている。また、食事の準備・盛り付けなどに携わる時は、手洗いの励行を全員でしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に手作りの案内板やプランターなどを置いて、明るい雰囲気作りに心がけている。内部も季節感を出せる飾りをし、心安らぐよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓ガラスに施されている障子により、陽光の調整、「穏やかに」を合言葉の職員の会話、などなどにより、入居者が落ち着いた生活ができるよう配慮している。またフロアーの飾り付けや家具の配置などを、本人と相談しながら一緒に考えて工夫している。料理の匂いや見た目にも配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには、椅子や小さなテーブル置き、共同空間で他の人の気配を感じながらも、一人になりたい時に過ごせるスペースを設けられてあり、それぞれの場所で自由に過ごされている。		

事業所名：グループホーム甲西

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みの物をもって来てもらい、居心地の良い居室づくりを心掛けている。入所時には家族へ、馴染みの身の回りの物を持ってきていただけるよう説明している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分の空調と各居室の空調はそれぞれ独立しているため、その時の入所者の状況に応じて調整している。朝・夕と食事後には、定期的に換気を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂場など必要な箇所に手すりが配置されている。トイレは広く、便座の左右両方に手すりを設置し、立ち居が容易にできるよう配慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者それぞれが、何が分かりにくいのか、それをどうしたら自分の力ですることができるのか、を、本人と職員全員で話し合い、その人に合った工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭のスペースに花壇を設置し、入居者と共に花を植えたり、日向ぼっこなどができるよう工夫している。		

事業所名: グループホーム甲西

V. サービスの成果に関する項目

項目			最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）